

# 住民投票を拒否したのは 住民主役のまちづくりに反する



**吉川義雄** 議員

吉川議員 氷川町と宇城市で取り組んでいる小川BSスマートインターチェンジ事業について、私が聞いている限り「インターイライナイ」「町の財政は大丈夫か」と建設に消極的な声です。町民のこうした声を町政に反映させようと、先の議会では、住民投票条例を提案し、議会は賛成多数で可決しました。ところが

町長は、住民投票条例を再び議会（再議）にかけ廃案にしてしまいました。再議というのは、町長が行政運営上問題ありとして拒否権を発動するといふものです。住民投票を行わせないといふもので、町長の言う住民主役のまちづくりに反するのではないですか。

## 今後事業費は大きく なるのではないか

吉川議員 町民には、財政負担も十分な情報しか伝わっていない。町民は8000万円、できると言っています。私は今後事業費は大きくなるかと判断しています。負担はこれ以上増えないのでしょうか。また、議会の特別委員会では、負担割合について宇城市が7割、氷川町が3割と決まりましたが、宇城市との交渉は現在どのような状況になっていますか。



インターチェンジ予定地

## インターチェンジの 存亡にかかわる事業

町長 インター建設に反対の声が多いといわれましたが、私のところには逆に、賛成の意見があつて、早くインターをつくってほしいという声です。このインターチェンジ事業は氷川町の存亡にかかわる大きな事業と捉えており、就任当初から積極的推進の立場です。

## 用地費、事業費の 変更もあり

町長 資料をつくり説明をしています。概算事業費、現在の概算事業費をベースに算出しますと宇城市と氷川町の負担は2億円で、それを6対4で割ると、氷川町は8000万円と説明しました。議員が言われるようにこれから先用地費、事業費等も当然変更があるかと、氷川町があの場

ります。負担割合の議決を宇城市の方にも伝え、7対3についても事務方で話を繋いでいます。

## インター建設場所は どうして決まったのか

吉川議員 インターチェンジ建設予定地は、竜北町の時に企業を誘致するために開発し、民間企業に売却してあります。宇城市で聞いたところによると、氷川町があの場

所を選んだということですが本当でしょうか。

町長 インター建設予定地を決定した経緯は、インター建設の制度要綱で、サービスエリア、パーキングエリア、バスストップと規定されています。それを念頭に検討されたと思います。近隣に民間企業の土地があったということですが、

## 高齢者が安心して暮らせる 福祉のまちづくりを

吉川議員 町長は就任のあいさつで「安心して暮らせ、幸せを実感できるまちづくりをめざす」と決意を述べられました。氷川町は高齢化率が30%近くなっています。今後は高齢者が安心して暮らせるようにするために、県内外で「福祉のまちづくり」を大きな課題としてかかげ、福祉条例やいろんな施策などに取り組んでいます。本町も福祉のまちづくりを掲げて取り組む決意はあります。

## 地域で支える システムが必要

町長 本町の高齢化率は30%となり、県内でも高齢化率は高い方です。高齢化対策については、法律にもとづき、町の取り組みもあります。何よりも大切なことは地域で支えるシステムが必要と常々思っています。

吉川議員 老人福祉法で、地方自治体は高齢者を敬愛し、健康で生きがいを有する生活を保障しなければなりません。福祉の先進地北欧や映画にもなった「住民が選んだ福祉の町」があります。ここは福祉の充実で雇用も生まれています。こうした先進地を研修する気はありませんか。

町長 機会があつたらぜひ勉強させていただきたいと思つています。他の自治体の取り組みを聞かせてもらっています。氷川町にあつた政策を模索していきたい。

# 景気浮揚は雇用 若者定着のため雇用対策を



**上田俊孝** 議員

上田議員 最近国内での経済悪化は目に余るものがあります。先般行われた民主党代表選挙の中でも、菅首相の政治施策のなかに雇用政策の表現がありました。私は、地方自治体においても景気浮揚はやっぱり雇用対策

だと思つています。住民が安心して暮らせる。また、若い人が定着する雇用の場。経済を向上させるためにも雇用対策を行政にお願いします。

シルバー人材センターの状況について。氷川町社会福祉協議会等の状況

今後の行政と民間企業との取り組みについてどのようなふうになつていきますか。

町長 シルバー人材センターにつきましては、現在87名の会員がおられ、運営については町補助金、年会費、事務費というところで会員の資金の1割相当額を事務費という形でセンターの運営に充てています。

社会福祉協議会の状況ですが、職員は40名。内訳は竜北、宮原の事業所福祉センター内に設けてあり、今後行政サービスの向上を目指し、職員を増員したいと思つています。

今後の行政と民間企業との取り組みについては行政としてどういった支援ができるかを探し、事業主への支援助成をし、地域雇用奨励金を活用していきたい。



シルバー人材センターの皆さん

# 氷川町総合振興計画の実現の為に 町民と行政、議会が一丸となって努力を

## 議長報告

町議会議長 笠原良一

合併5周年記念式典での、笠原議長の  
祝辞を紹介いたします。

本日ここに、氷川町合併5周年の記念式典が開催されるにあたり、町議会を代表いたしまして、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本町は、平成17年10月1日、火の君の里「竜北町」と火の国発祥の地「宮原町」が合併し、両町民の大きな期待のもとに、火燃ゆる町「氷川町」が誕生し、早くも5周年を迎えられました。誠に喜びに堪えません。合併以来、町は新町建設の基本方針に沿い、町づくりを着実に進めてこられたところであり、町が、地方分権の進展。社会経済の低迷、急速に進む少子高齢化や環境問題等、私たちを取り巻く状況は大きく変化し、住民ニーズは増大し、多様化してきました。こういった中で、住民と行政が役割分担して、協働で氷川町を創っていくこと、平成20年3月に「第1次氷川町総合振興計画」が策定され、議会はこれを承認したところであり、この計画の実現の為に、町民と行政、そして議会が一丸となって弛まぬ努力をし、お互いに知恵を出し、汗をかきながら、将来を担う若い人たちのために「氷川町」の礎となるものを築いていかなければなりません。

天与の極めてすぐれた自然環境を持つ氷川町が、人と自然がうまく調和し、ここに生まれ、そして住んでよかった、と言えるような、郷土愛に満ちた町になるよう、切にねがうものであります。

最後になりましたが、本日町政各般にわたる功労者として、栄えある表彰を受けられる皆様方、誠にありがとうございます。心からお祝いを申し上げますとともに、深く感謝の意を表する次第であります。終わりに、氷川町の益々のご発展と、町民の皆様方のご健勝をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。